

I

(1) $f(x) = x^2 e^{-2x}$ より,
 $f'(x) = 2x e^{-2x} + x^2 (-2e^{-2x}) = (-2x^2 + 2x) e^{-2x}$
 $= -2x(x-1) e^{-2x}$ (答)
 $f''(x) = (-4x + 2) e^{-2x} + (-2x^2 + 2x) (-2e^{-2x})$
 $= 2(2x^2 - 4x + 1) e^{-2x}$ (答)

(2) 曲線 $y = f(x)$ の凹凸は次のようになる.

x	...	$\frac{2-\sqrt{2}}{2}$...	$\frac{2+\sqrt{2}}{2}$...
$f''(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	∪	変曲点	∩	変曲点	∪

変曲点の x 座標は,

$$\frac{2 \pm \sqrt{2}}{2}. \quad \dots (\text{答})$$

また, $f(x)$ の増減は次のようになる.

x	...	0	...	1	...
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$	↘	0	↗	$\frac{1}{e^2}$	↘

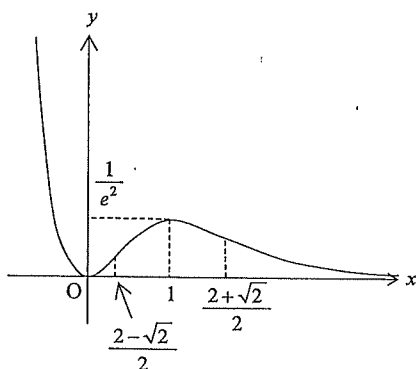
さらに, $x > 0$ のとき $0 < e^{-2x} < \frac{1}{x^3}$ より

$$0 < x^2 e^{-2x} < \frac{1}{x} \text{ であり, } \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{x} = 0 \text{ より,}$$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 0.$$

また, $\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = \infty.$

以上から, グラフの概形は図のようになる.



(3) $0 \leq x \leq a$ において $f(x) \geq 0$ であるから,

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_0^a x^2 e^{-2x} dx \\ &= \left[x^2 \left(-\frac{1}{2} e^{-2x} \right) \right]_0^a - \int_0^a 2x \left(-\frac{1}{2} e^{-2x} \right) dx \\ &= -\frac{1}{2} a^2 e^{-2a} + \int_0^a x e^{-2x} dx \\ &= -\frac{1}{2} a^2 e^{-2a} + \left[x \left(-\frac{1}{2} e^{-2x} \right) \right]_0^a \\ &\quad - \int_0^a \left(-\frac{1}{2} e^{-2x} \right) dx \\ &= -\frac{1}{2} a^2 e^{-2a} - \frac{1}{2} a e^{-2a} - \left[\frac{1}{4} e^{-2x} \right]_0^a \\ &= -\frac{1}{2} a^2 e^{-2a} - \frac{1}{2} a e^{-2a} - \frac{1}{4} e^{-2a} + \frac{1}{4}. \end{aligned}$$

ここで, (2) の過程より, $\lim_{a \rightarrow \infty} a^2 e^{-2a} = 0$ で

あり, $0 < x e^{-2x} < \frac{1}{x^2}$ より同様にして,

$$\lim_{a \rightarrow \infty} a e^{-2a} = 0.$$

さらに, $\lim_{a \rightarrow \infty} e^{-2a} = 0$ であるから,

$$\lim_{a \rightarrow \infty} S(a) = \frac{1}{4}. \quad \dots (\text{答})$$

II

(1) $n=3, x=1$ のとき、袋の中には、
赤玉 1 個、白玉 2 個

が入っている。

取り出した玉が 2 個とも白玉である確率は、

$$\frac{{}_2C_2}{{}_3C_2} = \frac{1}{3} \quad \textcircled{1}$$

この余事象の確率より、取り出した玉のうち、少なくとも 1 個は赤玉である確率は、

$$1 - \frac{1}{3} = \frac{2}{3} \quad \textcircled{2}$$

(2) $n=5, x=2$ のとき、袋の中には、
赤玉 2 個、白玉 3 個

が入っている。

取り出した玉が 2 個とも白玉である確率は、

$$\frac{{}_3C_2}{{}_5C_2} = \frac{3}{10} \quad \textcircled{3}$$

取り出した玉のうち、1 個だけが赤玉である確率は、

$$\frac{{}_2C_1 \cdot {}_3C_1}{{}_5C_2} = \frac{3}{5} \quad \textcircled{4}$$

(3) $n \geq 4, 1 \leq x \leq n-1$ のとき、袋の中には、
赤玉 x 個、白玉 $(n-x)$ 個 ($1 \leq n-x \leq n-1$)
が入っている。

$n-x \geq 2$ のとき、取り出した玉が 2 個とも白玉である確率は、

$$\frac{{}_{n-x}C_2}{{}_n C_2} = \frac{(n-x)(n-x-1)}{n(n-1)} \quad \textcircled{5}$$

(これは $n-x=1$ のとき 0 より成り立つ。)

この余事象の確率より、取り出した玉のうち、少なくとも 1 個は赤玉である確率は、

$$1 - \frac{(n-x)(n-x-1)}{n(n-1)}$$

この確率が $\frac{1}{2}$ 以上となるとき、

$$1 - \frac{(n-x)(n-x-1)}{n(n-1)} \geq \frac{1}{2}$$

すなわち、

$$\frac{(n-x)(n-x-1)}{n(n-1)} \leq \frac{1}{2}$$

よって、取り出した玉のうち、少なくとも 1 個は赤玉である確率が $\frac{1}{2}$ 以上となるための条件は、

$$(n-x)(n-x-1) \leq \frac{n(n-1)}{2} \quad \textcircled{6}$$

(4) $n=22$ のとき、 $1 \leq x \leq 21$ であり、(3) の結果より、
 $(22-x)(21-x) \leq 11 \cdot 21$

すなわち、

$$x^2 - 43x + 231 \leq 0. \quad \dots (*)$$

よって、 $1 \leq x \leq 21$ において (*) が成り立つような x の最小値を求めればよい。

(*) の左辺を $f(x)$ とおくと、

$$f(x) = x(x-43) + 231$$

より、

$$f(1) = 189 > 0,$$

$$f(2) = 149 > 0,$$

$$f(3) = 111 > 0,$$

$$f(4) = 75 > 0,$$

$$f(5) = 41 > 0,$$

$$f(6) = 9 > 0,$$

$$f(7) = -21 < 0$$

であるから、(*) が成り立つような x の最小値は

7.

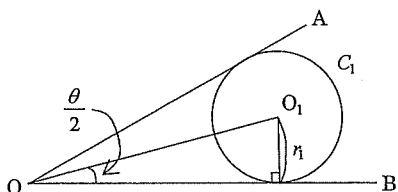
したがって、取り出した玉のうち、少なくとも 1 個は赤玉である確率が $\frac{1}{2}$ 以上であるときの x の最小値は、

$$\boxed{7} \quad \textcircled{7}$$

III

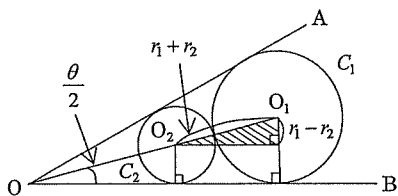
円 C_n ($n=1, 2, 3, \dots$) の中心を O_n , 半径を r_n とする.

(1)



$OO_1=1, \sin \frac{\theta}{2}=t$ より,

$r_1 = OO_1 \sin \frac{\theta}{2} = t. \dots(\text{答})$



また, 上の図の斜線部分の直角三角形に着目して,

$r_1 - r_2 = (r_1 + r_2) \sin \frac{\theta}{2}.$

$t - r_2 = (t + r_2)t.$

$(1+t)r_2 = t - t^2.$

$r_2 = \frac{(1-t)t}{1+t}. \dots(\text{答})$

(2) r_n と r_{n+1} について, r_2 を求めるときと同様に考えて,

$r_n - r_{n+1} = (r_n + r_{n+1}) \sin \frac{\theta}{2}.$

$r_n - r_{n+1} = (r_n + r_{n+1})t.$

$(1+t)r_{n+1} = (1-t)r_n.$

$r_{n+1} = \frac{1-t}{1+t} r_n.$

これより, 数列 $\{r_n\}$ は初項 $r_1 = t$, 公比

$\frac{1-t}{1+t}$ の等比数列であるから,

$r_n = t \left(\frac{1-t}{1+t} \right)^{n-1}. \dots(\text{答})$

(3) $S_n = \pi r_n^2 = \pi t^2 \left\{ \left(\frac{1-t}{1+t} \right)^2 \right\}^{n-1}.$

これより, $\sum_{n=1}^{\infty} S_n$ は初項 πt^2 , 公比

$\left(\frac{1-t}{1+t} \right)^2$ の無限等比級数であるが,

$0 < \frac{\theta}{2} < \frac{\pi}{4}$ より $0 < t < \frac{\sqrt{2}}{2}$ であり, この

とき $0 < \left(\frac{1-t}{1+t} \right)^2 < 1$ であるから, 収束してその和は,

$$\begin{aligned} \sum_{n=1}^{\infty} S_n &= \frac{\pi t^2}{1 - \left(\frac{1-t}{1+t} \right)^2} \\ &= \frac{\pi t^2 (1+t)^2}{(1+t)^2 - (1-t)^2} \\ &= \frac{\pi t (t+1)^2}{4}. \dots(\text{答}) \end{aligned}$$

(4) $S(\theta) = \frac{\pi}{4} \sin \frac{\theta}{2} \left(\sin \frac{\theta}{2} + 1 \right)^2$ より,

$\lim_{\theta \rightarrow 0} \frac{S(\theta)}{\theta} = \lim_{\theta \rightarrow 0} \frac{\pi}{8} \cdot \frac{\sin \frac{\theta}{2}}{\frac{\theta}{2}} \left(\sin \frac{\theta}{2} + 1 \right)^2$

$= \frac{\pi}{8} \cdot 1 \cdot (0+1)^2$

$= \frac{\pi}{8}. \dots(\text{答})$

IV

(1) 方程式 $z^3 = -8$ より,

$$z^3 + 8 = 0.$$

$$(z+2)(z^2 - 2z + 4) = 0.$$

$$z = -2, 1 \pm \sqrt{3}i$$

であり, 3解 z_1, z_2, z_3 について,

$$z_1 = -2, z_2 = 1 + \sqrt{3}i, z_3 = 1 - \sqrt{3}i$$

としてもよい.

よって,

$$\begin{aligned} & |z_1 - z_2| + |z_2 - z_3| + |z_3 - z_1| \\ &= |-3 - \sqrt{3}i| + |2\sqrt{3}i| + |3 - \sqrt{3}i| \\ &= \sqrt{(-3)^2 + (-\sqrt{3})^2} + 2\sqrt{3}|i| + \sqrt{3^2 + (-\sqrt{3})^2} \\ &= 2\sqrt{3} + 2\sqrt{3} + 2\sqrt{3} \\ &= \boxed{6\sqrt{3}}. \end{aligned} \textcircled{1}$$

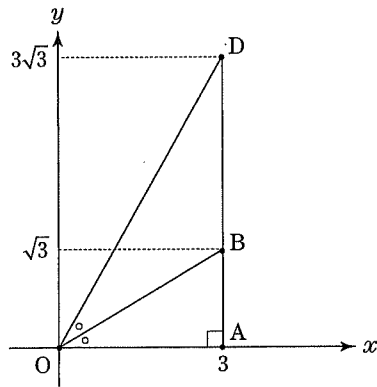
(2) $\angle AOB = \frac{\pi}{6}$, $OA = 3$, $OB = 2\sqrt{3}$ より, $\triangle OAB$ は

$\angle OAB = \frac{\pi}{2}$ の直角三角形であるから, 座標平面にお

いて,

$$O(0, 0), A(3, 0), B(3, \sqrt{3})$$

としてもよい.



線分 AB の延長線上に点 D を, OB が $\angle AOD$ の二等分線となるようにとると,

$$\angle AOD = 2\angle AOB = \frac{\pi}{3}$$

であり, $\triangle OAD$ は $\angle OAD = \frac{\pi}{2}$ の直角三角形であるから,

$$D(3, 3\sqrt{3}).$$

よって, 点 D は線分 AB を $3:2$ に外分するから,

$$\begin{aligned} \vec{OD} &= \frac{-2\vec{OA} + 3\vec{OB}}{3-2} \\ &= \boxed{-2}\vec{OA} + \boxed{3}\vec{OB}. \end{aligned} \textcircled{2} \textcircled{3}$$

(3) $x > 0$ のとき,

$$f(x) = x^{x^2} > 0$$

であるから, 自然対数をとると,

$$\log f(x) = \log x^{x^2}$$

すなわち,

$$\log f(x) = x^2 \log x.$$

この両辺を x で微分すると,

$$\begin{aligned} \frac{f'(x)}{f(x)} &= 2x \cdot \log x + x^2 \cdot \frac{1}{x} \\ &= (2\log x + 1)x \end{aligned}$$

すなわち,

$$f'(x) = (2\log x + 1)x \cdot f(x).$$

よって,

$$f'(x) = \boxed{2\log x + 1} x^{x^2+1}. \textcircled{4}$$

また, $x > 0$ における $f(x)$ の増減は次のようになる.

x	(0)	...	$e^{-\frac{1}{2}}$...
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$		↘		↗

したがって, $f(x)$ の最小値は,

$$f\left(e^{-\frac{1}{2}}\right) = \left(e^{-\frac{1}{2}}\right)^{e^{-1}} = e^{\boxed{\frac{1}{2e}}}. \textcircled{5}$$

(4) すべての実数 x に対して,

$$g(x) = -g(-x)$$

すなわち,

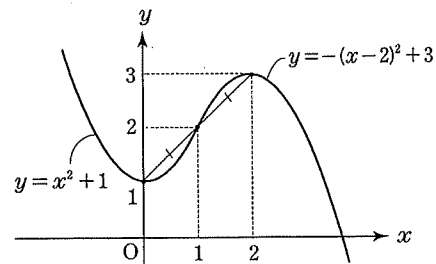
$$g(-x) = -g(x)$$

が成り立つのは, 曲線 $y = g(x)$ が原点に関して対称となるときである.

一方, $f(x) = 2x - (x-1)|x-1|$ とおくと,

$$\begin{aligned} f(x) &= \begin{cases} 2x - (x-1)^2 & (x \geq 1 \text{ のとき}), \\ 2x + (x-1)^2 & (x \leq 1 \text{ のとき}) \end{cases} \\ &= \begin{cases} -x^2 + 4x - 1 & (x \geq 1 \text{ のとき}), \\ x^2 + 1 & (x \leq 1 \text{ のとき}) \end{cases} \\ &= \begin{cases} -(x-2)^2 + 3 & (x \geq 1 \text{ のとき}), \\ x^2 + 1 & (x \leq 1 \text{ のとき}) \end{cases} \end{aligned}$$

であるから, $y = f(x)$ のグラフは次のようになる.



IV

$y=f(x)$ のグラフは点 $(1, 2)$ に関して対称であるから、 x 軸方向に -1 , y 軸方向に -2 だけ平行移動すると原点に関して対称となる。このように平行移動して得られたグラフを曲線 $y=g(x)$ とすると、すべての実数 x に対して、

$$g(x) = -g(-x)$$

が成り立つ。

したがって、求める a , b の値は、

$$a = \frac{-1}{\textcircled{6}}, \quad b = \frac{-2}{\textcircled{7}}$$